

## 自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 

共通教育センター
----------

(責任者名) 日向 良和  
(役職名) 共通教育センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		本年度より教養科目の「データサイエンス(リテラシー)」において実施している。また、学部学科共通副専攻プログラム「デジタルシティズンシップ研究」の1科目として開講しており、1年生に対してプログラムの履修案内をおこなっている。プログラムの修了状況は令和6年度3名初年度ということもあるが履修数が少ないことが課題である。
学修成果		少人数ではあるが、土曜日の集中講義という特性上、課題などに対して学生に集中して指導することができ、翌週までの課題提出というサイクルがうまくできた。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度		修了学生のアンケート結果については、科目内容が理解できたという回答が多数である。また科目の満足度も概ね高い結果となっている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度		初年度ということと、履修者数がごく少数ではあるが、アンケートの結果については概ね良好な評価がある。一方で、用語などについて、数学にあまりなれていない学生からわかりにくいという指摘があった。特にアンケートで後輩等への推奨度は測っていないため、今後のアンケート設計を検討する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況		履修者数、履修率の向上が課題である。これは副専攻プログラム全体が初年度となり学内PRがうまくいかなかったからと考えられる。今後新生やオープンキャンパスでのPRも含め履修者増をはかる。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	現状、プログラム修了者の卒業生が存在しない(令和6年度新入生から開講)ため、活躍状況などは不明である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	現状、卒業生が存在しないため、内容・手法に対する意見はない。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	プログラムでは、現代社会におけるICTの重要性を理解した上で、学生の問題意識をICTを活用して解決する科目となっている。プログラムの中では、単に就職などで活用できるだけでなく、社会貢献に関心の高い本学学生の特色により、科目で学ぶことの意義を理解している。教員がオープンデータなどを活用しながら応用範囲などをわかりやすく説明し、最後の課題として実社会のDXを提言する課題について学生は楽しみながら課題をこなしている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること  ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	使われている統計の用語などについては学生の事前知識が少ない部分も多いため、丁寧な説明が必要である。AIについては、まだ利用したことのない学生や実社会での利用像が明確でない学生が多いため、イメージをつかむところから指導していく必要があると考えている。